

北っ子 敷島北小学校だより

令和6年6月28日

文責 学校長 増坪広夫

現地でこそ感じられること

6月5日（水）から7日（金）までの2泊3日の日程で修学旅行にってきました。今回の修学旅行の目玉は「グループ学習での鎌倉散策」だったと思います。

この鎌倉散策を成功させるために子ども達は多くの時間を費やしてきました。当日を迎えるまでに何度も打合せを重ねてきただけあって、どのグループも安全に鎌倉を見学することができました。

散策中、多少のトラブルはあったかもしれませんが、それはケガや病気といったことではなく「いつか笑い話」になるものばかりだったと思います。子ども達なりに励まし合いながら散策を行うことができたこと、協力できたことは大変すばらしかったと思います。

こうした校外活動や体験学習とよばれる体験は何事にもかえがたいものだと思っています。



江ノ島水族館で見た高く飛び跳ねるイルカが意外と大きいこと。昼食に向かう途中の段葛（だんかずら）が鶴岡八幡宮に近づくとつれ道幅が狭くなる遠近法によって構築されていること。ゴールの大仏や歴史的な建造物が先人の知恵でできていることなど、実際に体験をして学んだことや経験は深く記憶に残ります。友だちと過ごした楽しさだけでなく、こうした「現地でこそ感じること」が含まれるからこそ「最高の思い出」になるのではないのでしょうか。

集団行動から学んだこと

さて、修学旅行は宿舎で過ごす時間も子ども達にとっては大きな意味があります。「少ししか寝ていない」「早く目が覚めてしまった」など、それは単に枕が変わったからではなく「普段とは違う会話」や「楽しく仕方がない」ことの表れだったからでしょう。

バスの中での過ごし方も大変よかったです。「みんなで楽しく過ごすために協力しよう」という気持ち



が感じられました。クイズを出して盛り上げるバスレク係や自分の好きな歌を熱唱したカラオケ大会など、バスガイドさんが遠慮するくらい大盛り上がりでバスの移動中も楽しい時間を共有することができました。団結力を感じさせる6年生の素晴らしいところがたくさん発見できた修学旅行でした。

さて6年生は、この3日間で体験してきた学びをこれからどのように学校生活に生かしていけるのでしょうか。修学旅行の成否はそこにあるような気がしてなりません。

相手を思いやる心×メリハリのある生活

先日、児童会主催の北小祭りが開催されました。児童会を中心に縦割り班ごとにお店を出して楽しむイベントです。

ここでも6年生が中心となって「どうしたらみんなが楽しめるか」「ご褒美の賞品を何にするか」など、休み時間を使って打合せや準備に取り組んでいました。また、お祭りの間も下級生の行きたいところなどに合わせて訪れるコースを計画し、混み具合を計算しながら店回りを楽しみました。下級生をリードする、そんな6年生の活躍に修学旅行を経験して大きく成長した姿を感じました。



さて教職員の多忙化が報道などで取り上げられますが、よく「メリハリのある生活」が大切といわれます。頑張っている時もあるけれど、余裕をもったのんびりする時も時には必要になります。学校生活も同様で楽しむ時には楽しむ、集中する時には集中するといったことが大切になります。

昔、学級目標に「やる時はやる」を掲げていたこともありました。担任時代には、教室で折に触れてそうしたことを子どもたちに語り、大切なことを話す時には、無駄口が消えるまで絶対に話さないようにしていました。時には根負けしそうな時もありましたが、時間をかけても身につけさせたいことのひとつだと思っていました。

ただこれは「先生の話をしっかり聞けよ」などと言ったおごったものではなく、話をするのが教師でも友だちであっても同じように振る舞えることを求めたものです。「友だちを大切にする」「人を大切にする」ことは、まずは、その人の声に耳を傾けることから始まるのだと思っています。「話をきちんと聞いた上で反応する」そんな関係を築かせたいものです。



日常生活の「おはようございます」の朝の挨拶や、給食の「いただきます」、「さようなら」の帰りの挨拶も、まずは完全なる沈黙を求めたいものです。そして挨拶を交わした後は、ぱあっと解放され「友だちとの会話で楽しく賑やかになる」そんな学級が増えたらいいなと思っています。

過去と他人は変えられないが、未来と自分を変えられる

私が担任をしていた頃、ある先輩の先生から教えていただいた言葉です。とても気に入っていた言葉で「物事を前向きに、積極的に見ていこう」という気持ちにさせてくれました。過去の自分や現在の自分がどうであるのかということではなく「自分がどんな人間になりたいのか」という将来に向けた考え方こそが大切であるということです。



もちろん、こうした想いは本校の子ども達にも持ち続けて欲しいと思っています。「できるわけがない」「自分には無理だ」「自分の性格だからしょうがない」など、消極的な考え方をもつのではなく、これまでの自分をより高めていけるような人になって欲しいと願っています。

結局、自分を変えていけるのは自分だけでしかないのですから。